

令和8年度病害虫発生予察予報第1号（令和8年4月）

令和8年4月3日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 灰色かび病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u> 平年並(中西)、少(中央、西) <u>やや多(中央、中西)</u> 、平年並(西) <u>多(中央、中西)</u> 、やや少(西) <u>多(県下全域)</u> <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央、西) <u>多(中西)</u> 、平年並(西)、少(中央)
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、西)</u> 、少(中央) <u>多(中央)</u> 、平年並(東)、少(西) <u>多(西)</u> 、 <u>やや多(東、中央)</u> <u>多(西)</u> 、やや少(東、中央) <u>多(西)</u> 、少(東、中央) <u>多(西)</u> 、平年並(中央)、少(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東、中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 平年並(県下全域) <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> <u>多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u>
促成トマト	灰色かび病 葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>やや多(中央)</u> 少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
水稻	スクミリンゴガイ	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、やや少(西)
果樹類	果樹カメムシ類	<u>やや多(県下全域)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
 県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
 県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
 吾川郡いの町および高岡郡日高村
 県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)の町村および吾川郡仁淀川町
 県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
 なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台4月2日発表)

4月4日から5月3日までの天候見通し

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半はかなり高くなる見込みです。期間のはじめを中心に低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。降水量は、多い確率60%です。日照時間は、平年並または少ない確率40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)	
1か月	四国地方	気温	10	10	80		
		降水量	10	30		60	
		日照時間	40		40	20	

<気温経過の各階級の確率(%)>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		10	20	70	
3～4週目		10	30		60

<予報の対象期間>

1か月：4月4日(土)～5月3日(日)

1週目：4月4日(土)～4月10日(金)

2週目：4月11日(土)～4月17日(金)

3～4週目：4月18日(土)～5月1日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：多(中西部)、やや多(中央部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部でやや多く、中央部、西部で平年並であった。発病程度は西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 例年、4月はいずれの地域も発生が増加する傾向にある。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2) 灰色かび病

予 想 発生量： 平年並(中西部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、中西部で発生が見られ、発生面積、発病程度ともに平年並であった。
- (2) 例年、4月は県下全域で発生が見られる傾向にある。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、中西部では現在と同程度の発生が続き、中央部や西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量： やや多(中央部、中西部)、平年並(西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、中西部で平年並、西部でやや少なかった。発病程度は中西部で平年並、中央部、西部で低かった。
- (2) 例年、4月はいずれの地域も発生が増加する傾向にある。
- (3) 4月の気温は高いと予想されていることや、発生状況から、いずれの地域も発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量： 多(中央部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、中西部で平年よりやや多く、西部で少なかった。発病程度は西部で平年よりやや高く、中央部、中西部で平年並であった。
- (2) 3月の調査では、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は県下全域で確認されている。例年、いずれの地域も4月はミナミキイロアザミウマの密度が上昇し、発病は増加傾向である。
- (3) 4月の気温は高いと予想されていることや、発生状況から、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

5)退緑黄化病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域も平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、4月はいずれの地域も媒介虫であるタバココナジラミの発生が3月と同程度見られる傾向にある。
- (3) 4月の気温は高いと予想されており、タバココナジラミの増殖に好適となることや発生状況から、県下全域で平年より発生が多い状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

6)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(中央部、西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年並、中央部、西部でやや少なかった。発生程度は中西部で平年並、中央部、西部では低かった。
- (2) 例年、いずれの地域も4月にかけて発生が増加していく傾向にある。
- (3) 4月の気温は高いと予想されおり、本虫の増殖に好適となることや発生状況から、既発ほ場を中心に県下全域で発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

7)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中西部でやや高く、中央部で低かった。
- (2) 例年、4月はいずれの地域も3月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 4月の気温は高いと予想されているが、例年の発生状況から、いずれの地域も現在の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1)灰色かび病

予 想 発生量：多(東部、西部)、少(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、東部、西部で発生が見られ、発生面積はともに平年より多かった。発病程度は東部で平年より高く、西部でやや低かった。
- (2) 例年、4月は西部では発生が増加し、東部、中央部では3月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、東部、西部では発生が増加し、中央部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はほ場外に持ち出して処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(東部)、少(西部)

根 拠

- (1) 4月の調査では東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、東部でやや少なかった。発病程度は東部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 例年、4月は県下全域で発生が増加する傾向にある。
- (3) 4月の気温は高いと予想されていることや、発生状況から、東部、中央部では発生が増加し、西部でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(東部、中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部、中央部で平年並であった。発病程度は中央部、西部で平年より高く、東部でやや低かった。
- (2) 例年、4月は県下全域で発生が増加する傾向にある。
- (3) 4月の気温は高く、降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、いずれの地域も発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) すずかび病

予 想 発生量：多(西部)、やや少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年より多く、東部、中央部では少なかった。発病程度は、西部で平年並、東部で平年よりやや低く、

中央部で低かった。

- (2) 例年、いずれの地域でも4月は発生が増加する傾向にある。
- (3) 4月の気温は高く、降水量は多いと予想されていることや、例年の発生状況から、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(西部)、少(東部、中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では西部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発病程度は平年より高かった。
- (2) 例年、4月は県下全域で3月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 4月は気温が上昇し、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、タバコカスミカメなどの天敵の動きも活発になるため、いずれの地域でも現状の発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(西部)、平年並(中央部)、少(東部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は西部で平年より多く、中央部で平年並、東部で少なかった。発生程度は西部で平年より高く、中央部でやや低く、東部では低かった。
- (2) 4月の気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適となる時期ではあるが、タバコカスミカメなどの天敵の動きも活発になるため、いずれの地域でも現状の発生で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(東部、中西部)、やや多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中西部で平年より多く、中央部で平年並であった。発病程度は東部で平年より高く、中西部でやや高く、中央部で低かった。

- (2) 例年、4月は東部、中央部では3月と同程度の発生が続き、中西部では増加する傾向にある。
- (3) 4月の気温は平年より高いと予想されていることや、発生状況から、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並(県下全域)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は平年よりやや少なかった。発病程度は中西部で平年より高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 例年、4月は県下全域で発生が増加傾向となる。
- (3) 4月の気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。夜温が高いと加温機の稼働時間が短くなり、ハウス内湿度が高い状態で推移することや、発生状況から、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、やや多(中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中央部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は中西部で平年よりも高く、東部で平年並、中央部では低かった。
- (2) 例年、5月にかけて県下全域で発生が増加傾向となる。
- (3) 4月の気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。夜温が高いと加温機の稼働時間が短くなり、ハウス内湿度が高い状態で推移することや、発生状況から、県下全域で発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 3月の調査では中央部で発生が見られ、発生面積は平年より多く、発生程度は平年

より高かった。

- (2) 例年、4月は東部、中央部で3月と同程度の発生が続き、中西部では発生が増加傾向となる。
- (3) 4月の気温は平年より高いと予想されていることや、発生状況から、中央部では平年より多い発生が続き、東部、中西部では発生が見られ始めると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや多(東部)

根 拠

- (1) 3月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、中央部でやや多く、東部で平年並であった。発生程度は中西部で平年より高く、中央部で平年並、東部で低かった。
- (2) 例年、4月は東部、中央部で発生が増加傾向となり、中西部では3月と同程度の発生が続くと考えられる。
- (3) 4月の気温は平年より高いと予想されていることや、発生状況から、県下全域で発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、4月にかけて発生が増加する傾向となる。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、今後も発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 換気などによりハウス内湿度の低下に努めるとともに、発病した果実や茎葉はほ場外に持ち出して処分する。

2) 葉かび病

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、発生面積は平年並、発病程度は低かった。
- (2) 例年、4月にかけて発生が増加傾向となる。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、今後も発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本病は22℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3)すずかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発病程度は平年並であった。
- (2) 例年、4月にかけて発生が減少傾向となる。
- (3) 4月の降水量は多いと予想されていることや、発生状況から、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。
- (3) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4)黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年作終盤の4月にかけて発生が増加傾向であること、また、4月の気温は平年より高いと予想されており、本病の媒介虫であるタバココナジラミの活動が気温の上昇とともに活発になることが予想されることから、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5)タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 3月の調査では発生面積は平年より多く、発生程度は高かった。
- (2) 4月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖に好適となることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉に産卵するので、薬剤防除の際は、かけ残しのないようていねいに散布し、特に上位葉は重点的に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、開口部のネット被覆(0.4mm目以下)や天敵、粘着トラップの利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

5 水稻（早期稲）

1) スクミリンゴガイ

予 想 発生量：多（東部）、やや多（中西部）、平年並（中央部）、やや少（西部）

根 拠

- (1) 昨年の発生面積は、東部で平年よりも多く、中西部で平年並、中央部でやや少なく、西部で少なかった。
- (2) 冬季の気温が平年並～高く推移したことや、4月の気温も平年より高いと予想されていることから、今後、活動が活発になると考えられる。

対 策

- (1) 水中で食害するので、発生ほ場では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理（水深4cm以下）を行う。ただし、薬剤処理時や低温時には湛水状態とする。
- (2) 水路からの侵入を防止するため、取水口や排水口に金網等（約5mm目合）を設置するとともに、発生した貝と卵塊を捕殺する。
- (3) 貝の発生が多い場合には薬剤の本田施用を実施する。

6 果樹類

1) 果樹カメムシ類

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 県内4地点で実施しているフェロモントラップ調査において、昨年は東部、中央部、西部で9～10月にかけて平年を上回る発生が見られ、特に西部では急増した。
- (2) 冬季の気温が平年並～高く推移しており、越冬個体は多いと考えられる。
- (3) 気温の上昇とともに本虫の活動が活発になることから、園地への飛来が早まる恐れがある。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧（農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.）